

未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト

平成27年度実施報告書

埼玉県立浦和高等学校

1 学校の現状と課題

本校では「尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。」という目指す学校像の実現を掲げ、生徒が学習、学校行事、部活動等に全力を傾注した高校生活を送っている。結果として、3年間で人間的に大きく成長を遂げ、生徒に第一志望はゆずらないとの堅い信念を持たせ、全職員が戦力を挙げて生徒一人ひとりの進路実現に取り組むことにより、多くの生徒が第一志望への進路実現を果たしている。また、課題としては、高校入学段階で、主体的に行動できる生徒が少なくなっている現状では、自走（自立）を待つ指導ではなく、自走を促す指導が必要である。各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導の研究と実践が必要である。

2 本校における27年度までの取組（事業指定の3年間の成果と課題についての概要）

平成25年度の本事業を取り組む過程で実施した全教職員対象のアンケートで、リーダー教育という視点で本校教育に必要な教育活動として、自分たちと異なる環境・境遇にいる人たちとの交流を深めること、価値観の多様性に気付かせるような活動、さらに他者の気持ちを理解する共感力を養う教育などが挙げられた。このアンケート結果から「多様で異質な価値観を有する他者を理解する柔軟性、協調性、共感力を育成することがリーダー育成の上で課題である」という共通認識が生まれ、その共通認識の下で大学、研究機関、海外姉妹校との連携を進めてきたところである。

また、本校は平成26年度より、文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール」に指定され「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成」をテーマに、幅広い教養と深い洞察力を持った知徳体のバランスのとれたリーダーの育成を行っている。これまで連携してきた大学、研究機関、海外姉妹校との連携を強化・充実しながら、国内外の大学等に積極的に飛び出し、多様で異質な価値観を持つ他者と切磋琢磨し、課題と指摘された他者への共感力を磨き、新しい価値を創造できる真のグローバルリーダーの育成していく体制づくりにさらに邁進している。成果としては、「リーダーとして社会に貢献しようという意識が向上した」生徒の割合が昨年度の82.9%から85.6%に増加した。

3 本年度（H27年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

① 進路講演会

ア 講義・講演等のねらい

毎年秋に「進路講演会」と題し、第一線でご活躍されている著名人を招いての講演会をおこなっている。隔年で文系理系分野の先生方にご講演をお願いしている。高校生という、多様な可能性を秘め自我を確立していく時期に、一流の先生方の専門的な話、ものの捉え方、考え方、その人柄等に直接触れることは、生徒の進路に様々な示唆を与えるはずである。今年度は、11月18日に日本総研首席研究員の藻谷浩介氏にご講演をいただいた。

イ 講義・講演等の概要

講演題 数字から知る日本経済の実相ーそしてあなたの人生は

- ・ 犯罪件数や空き屋率、高齢化率などのデータの見方などから、空気やイメージにまどわされることの危うさについて
- ・ 時系列的な人口動態データをもとに「この状況をどのようにとらえ、君たちはどのように生きるか」ということの問題提起
- ・ 自分の頭で考えながら前向きに生きていくことの重要性などについて熱く語っていただいた。

ウ 生徒の様子

講師の徹底した現場主義、徹底した実証主義の姿勢に感銘を受けるとともに、その根底にある人間や社会への信頼を語る講師の人柄に共感している様子だった。講演後も生徒からの質問が絶えず、時間ぎりぎりまでの質疑応答となった。

② 麗和セミナー

ア 講義・講演等のねらい

「麗和セミナー」は、各分野の第一線で活躍する卒業生を招いて在校生の希望者にじっくりと話をしていただく機会である。毎年4～5回程度行われており、先輩の話を聞き、疑問をぶつける非常に知的な会となっている。まさに、生徒の「志」を育てる貴重な機会となっている。

イ 講義・講演等の概要

- 第1回（6月2日）農林水産省関東農政局長 末松 広行 氏

「行政官ができること」

～一次産業が環境と地域を守り日本を発展させるために～

- 第2回（9月30日）作家(元外務官僚) 佐藤 優 氏

「エリートについて考える」

- 第3回（10月9日）慶應義塾大学法科大学院教授・弁護士

野辺 博 氏

「法曹への道 法曹制度の今」

- 第4回（11月6日）微生物化学研究会理事長、東京大学名誉教授

北海道大学名誉教授 柴崎 正勝 氏

「ノーベル化学賞受賞候補者と報道されるまでの道程」

- 第5回（2月8日）任天堂株式会社企画開発本部企画開発部

阿部 悟郎 氏

「会社員として、ゲームを作るということ」

ウ 生徒の様子（講演後の質疑）

・どの回も多くの生徒たちからの質問が寄せられ、それぞれの話題や講師の方たちからのメッセージに対する関心の高さが伺われた。

2) 学校において3年間を見通した組織的な進路指導体制を構築する取組について (完成年度としての成果と課題等)

本校では平成12年度から取り組んできた「新世紀構想」による様々な模索を経て実践の定着と、平成22年度から平成24年度までの「進学指導重点推進校」の研究指定におけるそれぞれの取組の現状確認により、戦略的な進路指導体制の構築を図ってきた。そして、平成23年度に確認した「次の10年に向けて」の方向性（『「自走する集団づくり」とおして、「尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成」を目指し続ける。』）を実現すべく、改善を図るべく取り組んでいるところである。そのための、校内体制の概要は、次のとおりである。

- ・職員間の認識の共有化「進路指導」の定義の確認
- ・職員間の情報共有・共通理解「進路指導研修会」（5月）の開催
- ・年次団による3年間を見通した指導の改善の取り組み
- ・教科による3年間を見通した指導の改善の取り組み

3) その他

① 高大連携ボーイングプログラム

ア 概要

このプログラムは、東京大学がボーイング社の世界的に展開する教育プログラムに参加して、「世界の将来を担うべき優れた科学者・エンジニア」を育成する事業として共同で実施するものである。その中の高大連携プログラムとして本校との連携講座が行われて3年目になる。

第5回は8月20日に東京大学工学部にて、第1回と同じ「未来の飛行機を設計する」をテーマ実施され、本校からの10名のほか、浦和第一女子高校、川越高校、川越女子高校、大宮高校の各校からも参加があった。午前中は鈴木真二教授による講義のあと、川崎重工からボーイング社（米国シアトル）に出向中の航空宇宙工学科OBと Skype を介した講義と質疑応答（質問は事前課題として各生徒がメールで提出）を行った。午後は、航空宇宙工学科の4研究室（機体構造・空気力学・制御・エンジン）を1グループにつき2つ訪問し、その後ジグソー法的手法で「未来の航空機」についてグループで話し合い、ポスターによるプレゼンテーションをコンテスト形式で行った。各グループは異なる高校から男女混成で構成され、大学院生からアドバイスを受けながら午前の講義や研究室訪問で学んだ内容をもとに生徒間で活発な議論が行われた。

イ 生徒の様子

参加した生徒は、航空宇宙工学を学び実際に研究室を訪問することで知的刺激を受けるとともに、プレゼンテーション能力の向上も図られた。また、他校生徒との交流も生徒のモチベーションを向上させた。

② 東大見学会

ア 概要

このプログラムは、これから進学することになるであろう大学というところの環境や雰囲気を感じ、将来の進路選択の一助となっているとともに、研究の現場で今話題となっていることや高校の勉強が大学での研究にどのようにつながっていくのかなどを知る貴重な機会となっている。今年は、1・2年次生対象で7月24日（文系）、9月15日（理系）1年次生のみ対象で11月14日にそれぞれ実施された。

イ 生徒の様子（感想）

・自分の現在の志望は経済学部であったが、これを機に教育学の奥の深さを知るきっかけとなり、多くの分野を学んでみたいとも思えるようになった。また、東大のレベルの高さも改めて実感した。最後にOBの先輩方と一緒に昼食をとった。先に聞いた話に加え、浪人の話や他大学との差異、先輩の浦高生活、受験にあたっての話など本当にたくさん話を聞き、自分も夢中になって聞き入っていた。今回の見学会は今の自分にとって、とても貴重な体験となった。この経験と聞いた話を元にこれから志望大学の合格を目指して努力していきたい。

・文学を研究する方々と会って感銘を受けた。文学を読むのは好きだったものの、それらを分析してまとめあげたり、あれこれ考えて文章にしたりするのが得意でなかった。また、外国の文学は考え方が捉えにくいと感じていた。しかし、教授の話を聞き、文学を読み、分析し、論文にまとめ上げる最前線にいる人の考え方を強く感じ取れた。今後は、さまざまなジャンルの文学を読み、深く分析ができるようになりたいと思った。

・私はもともと医学部を志望していたので、あまり農学部には興味がなかったが、今回の見学を通して、医学だけでなく農学、大学についても視野が広がった。今からしっかり勉強に励み、東大に行けるように頑張りたい。

・実際に東大大学院生の授業風景の見学をして、質問や様々な意見を学生同士でぶつけ合っているのを見て、そのすごさに圧倒された。食堂では陸上部の先輩の方とお話しする機会があった。高校生活でのアドバイスや大学のことなどとても真剣に話してくださって、非常にためになるお話だった。

4 参考資料

なし